

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第3回 所沢市地域公共交通会議
開 催 日 時	平成27年11月18日(水) 午後2時00分から午後3時40分まで
開 催 場 所	市庁舎 3階 全員協議会室
出 席 者 の 氏 名	大友 昭三 富岡 ゆつき 木下 秀子 鈴木 淑子 鈴木 由紀子 一木 昭憲 山内 智矢(代理出席:原口 一郎) 藤田 貢 尾崎 晴男 柳瀬 光輝 坂本 剛章 鈴木 康人 糟谷 守 溝井 久男 仲 志津江 高橋 真利子 宮崎 信二
欠 席 者 の 氏 名	鶴岡 洋、加藤 和伸、高橋 袈裟男
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	なし
議 題	1 開会 2 議事 (1) 所沢市の地域公共交通について (2) その他

<p>会 議 資 料</p>	<p>1 所沢市地域公共交通会議委員名簿  2 第2回所沢市地域公共交通会議 会議録  3 他市事例資料  4 今後の地域公共交通の検討に関する提言</p>
<p>担 当 部 課 名</p>	<p>経営企画部：桑原部長、平田次長  企画総務課：野村交通政策室長、緑川主査  【事務局】：経営企画部 企画総務課 交通政策室  電話 04-2998-9046</p>

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
経営企画部次長	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委嘱状交付（柳瀬委員）</li> <li>・会長あいさつ</li> <li>・会議成立の報告</li> <li>・会議の公開の確認</li> <li>・傍聴希望者の確認     ※傍聴者 3名</li> <li>・配布資料の確認</li> </ul> <p>2 議事</p> <p>以下、尾崎会長が議長となり進行</p> <p>(1) 所沢市の地域公共交通について</p>
議長	<p>まず、所沢市の地域公共交通について、事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>前回、中間報告書について説明し、様々なご意見、ご進言等をいただいた。内容そのものについては概ね了承いただいたものと認識しているが、まず全体についてあらためて何か意見等あるか確認したい。</p> <p>【特に意見等なし】</p>
議長	<p>意見等がなかったので、会議として、中間報告書については了承したものとする。引き続き事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>全体について了承いただいたが、今後の地域公共交通を検討して行くうえで、重要なポイントとなる部分について、もう一度委員の皆様にも再度確認させてもらいたい点がある。2点あり、まず、中間報告書 P12 にある「ところバスの課題解決のためには、最終的には路線（コース）のコンパクト化は避けて通れない」という点、もう1点は、P15、P21 にある「ところバスをコンパクト化することと併</p>

	<p>せて、それを補完する新たな交通手段として小型車両を使った乗合タクシー（デマンド）等を検討していく」という点である。</p>
議長	<p>それぞれについて、今後、前向きに検討していく余地があるかということを確認する趣旨でよいのか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
議長	<p>何かご意見等あれば受け付けたい。</p>
委員	<p>コンパクト化という意味では、今よりも多くの便数で駅を中心に短い距離で巡回するようなイメージのコース設定はどうか。</p>
事務局	<p>駅を中心にしたコース設定は十分考えられる。</p>
委員	<p>バスの利用者の話を聞くと、ところバスも含め市内のバスは目的地までに時間がかかることが課題であると考えます。1つのバスがあちこち回るのではなく、イーグルバスが他自治体で実施している中間ロータリー（乗り換え拠点）を作り、そこから様々な方向へバスを運行させるイメージはどうか。本来は道路整備が一番良いのだが、現実的に簡単にはできない以上、現状の中でいろいろと工夫していかなければならない。新しい方向性を考えていくべきである。</p>
委員	<p>ときがわ町で実施している「ハブ&amp;スポーク方式」のことであるが、これはときがわ町の特徴とうまくマッチし、成功したものである。路線を細分化したことで、バスの台数が増え、人件費や燃料代は増大したが、ときがわ町は、多くの利用者があるなら経費増大はやむをえないという考えである。所沢市にふさわしいものかどうか精査しながら、良い事例は参考に、検討を進めてもらいたい。</p>
委員	<p>所沢市は広いので、特に郊外地域から駅までのアクセスなどについては、それぞれの地域ごとに検討していくべきではないか。</p>
事務局	<p>ときがわ町の事例も参考にしていきたい。</p>
委員	<p>中間報告書からはところバスを効率化したいという意図が見え</p>

	<p>るが、ときがわ町はハブ&amp;スポーク方式で経費を削減できたのか。</p>
委員	<p>ハブ&amp;スポーク方式実施以前より経費は増大している。さきほど申し上げたとおり、ときがわ町は利便性の向上（利用者の増大）のメリットに重きを置いている。</p>
議長	<p>ときがわ町の事例はバスセンター（ハブ）を街の拠点とするという街づくりの視点もある。一方で、一般的に不便と考えられる乗り換えが発生することも事実である。</p>
委員	<p>やはり、市の財源は限られており、まずはところバスについては、毎年1億円以上の運行補償料を削減することが必要ではないか。</p>
議長	<p>もちろん、お金は有効に使われなければならない。</p>
委員	<p>事務局に確認したいが、所沢警察で運転免許証を返納し、運転経歴証明書を取得した人がところバス無料券を取得している割合はどの程度か。</p>
事務局	<p>約4割弱である。市では運転免許証を自主返納した人で希望者に対し、1年間有効のところバス無料券（定期券または50回分の回数券）を交付している。高齢者の交通事故対策の一環である運転免許証自主返納制度の推進の一役を担う目的で、交通安全課でこのような取り組みを実施している。</p>
委員	<p>自主返納を推進するという意味で、1,000円の手数料がかかる運転経歴証明書の取得に対する市からの助成は考えていないか。</p>
事務局	<p>今のところ考えていない。</p>
委員	<p>三ヶ島地区や和ヶ原地区などの人は、所沢駅などの市街地ではなく、狭山ヶ丘駅であったり、場合によっては市外の武蔵藤沢駅などにアクセスしたい場合もある。吾妻地区の人も東村山駅にアクセスしたい人もいる。路線バスは様々な駅を拠点として路線が敷かれているわけだから、ところバスと路線バスをうまく連携させればこのようなニーズに応えることができ、利用者増につながられるのでは</p>

	<p>ないか。</p>
議長	<p>様々な意見が出たが、あらためて事務局から出された2点の方向性に異論はあるか。</p> <p>【特になし】</p>
議長	<p>異論はないようである。他に事務局からあるか。</p>
事務局	<p>小型車両を使った乗合タクシー（デマンド）等の導入に向け検討して行くことを提案したが、近年、各自治体で、コミュニティバスで賄いきれない地域をタクシーなどの小型車両で補完する取り組みが増えてきている。バスを否定するのではなく、役割分担である。所沢市がどのような交通手段（形態）を採用するかの議論はまだ先とさせていただくが、前回の会議で、話が出た事例等、他市でどのような取り組みがあるのか少し説明したい。</p>
議長	<p>確かに、前回東松山市などの事例が紹介された。資料もあるようなので説明してほしい。</p>
事務局	<p>東松山市デマンドタクシー、さいたま市和土地区コミュニティタクシー、久喜市デマンド交通の概要について説明</p>
委員	<p>デマンド形式は長所もあるが、これを導入すると行政は大変ではないか。</p>
事務局	<p>確かに、他自治体に聞くと、なかなか利用者のニーズが合わず、乗りあわないという話を聞く。また運行管理システムを導入しなければならないケースもあるので、コスト的に難しい面が多い。</p>
委員	<p>市ではデマンド交通の導入を考えているのか。</p>
事務局	<p>これからの検討課題である。今回はあくまで事例紹介である。</p>
議長	<p>先行事例を参考にしつつ、所沢市にふさわしいものを考えていくわけである。</p>

議長	<p>前回から中間報告書について議論してきたが、このあたりで終了したい。今後の議論内容について事務局の方で考えているのか。</p>
事務局	<p>中間報告書は昨年度庁内の職員のみでまとめたものであり、まだ触れられていない内容や結論が出ていない部分がある。まずは、皆様から、「こんな議論も必要ではないか」といった、何か気づく点があるか。例えば、ところバスの3つの運行目的についても率直な意見を伺いたい。</p>
議長	<p>確かに中間報告書は職員のみで作成されたものであり、様々な関係者で構成されたこの会議で議論した内容が新たに盛り込まれるべきである。</p>
委員	<p>議論がところバスに偏っていないか。路線バスとの関連で話すが、西武バスにも、行政任せでなく、どうしたら人が多く乗るかを考えてもらいたい。例えばリサイクルふれあい館エコロにところバスが乗り入れているが、通常時は利用者がいない。ただ、多くの参加者があるエコロまつりのときは市と西武バスが協力して、臨時のバスを運行させるといった、臨機応変な取り組みを双方にお願いしたい。</p>
事務局	<p>市とバス事業者とのさらなる協力体制は必要であると認識している。また、路線バスとところバスのコースが重複している箇所があることも課題と考えているが、西武バスではその点はどのように認識しているか聞きたい。</p>
委員	<p>やはりコースの重複による競合はなるべく避けたいという考えである。また、イベント時の対応については、例えばところざわまつりの際に東所沢駅から臨時バスを運行するなど対応しているが、今後はさらに市と協力するなどしながら、積極的に取り組んでいきたいと考えている。</p>
議長	<p>もちろん、民間事業者である以上、事業として成り立つことが必要であるが、いろいろと考えてもらえればと思う。事務局から他に</p>

事務局	<p>ところバスの運行目的に「公共施設の利便性の向上」があるが、この点について意見を伺いたい。</p>
委員	<p>今度新しく総合福祉センターができると思うが、例えば最寄の駅からシャトルバスを運行させることは経費的な面も含めてどうなのか。</p>
事務局	<p>総合福祉センターへの公共交通のアクセスについては将来的には様々な検討が必要であろうが、ところバスの運行目的に「公共施設の利便性の向上」がある以上、まずはところバスの乗り入れを考えている。</p>
委員	<p>ところバスでないといけないのか。</p>
事務局	<p>ところバス以外の交通手段を排除するものではないが、ところバスの乗り入れから検討することになる。リサイクルふれあい館への運行についても、「公共施設の利便性の向上」が根拠であるが、結果として運行距離と所要時間の増大をもたらしているのではないかと考えている。</p>
委員	<p>少なくとも利便性の向上という観点から見れば、ところバスでなくとも良いと思う。最寄の駅から便利に行ければよい。</p>
委員	<p>所要時間の短縮という意味では、例えば、吾妻循環コースの「競輪場入口」と「西武園駅」は目と鼻の先なのだから、1つで良いのではないか。地域の人のお話を聞けば、このようなバス停の配置は不要というような考えにもなるのではないか。こういう視点が見直しの出発点なのではないか。</p>
議長	<p>確かに、コースの見直し以前に、こういうことは検証しなければならない。</p>
委員	<p>ところバスは小中学校の前もかなり運行しているように見えるがこれも「公共施設の利便性の向上」の観点からなのか。</p>
事務局	<p>そうではない。たまたまコース上付近に多いだけである。</p>

委員	これから高齢化がますます進行していくことから、高齢者向けの施設もさらに必要となってくると思う。例えば、そのような施設を一定の地域に集めるなど、街づくりの観点も視野に入れて考えていかなければならない。
事務局	そのとおりである。将来的には、例えば、公共施設を含め、駅周辺に様々な機能を集中させるといったいわゆる「コンパクトシティ」の方向へ向かって行くことになるだろう。
議長	まさに国全体の流れがそのような方向を目指すことになるだろう。街づくりと公共交通施策は一体である。
議長	その他に事務局から何かあるか。
事務局	資料4は、市議会の市民環境常任委員会から出された「今後の地域公共交通の検討に関する提言」である。市民の代表である議会からの提言であることから、きちんと受け止めて施策に反映、検討していかなければならない。ただ、内容が非常に広く、分野也多岐にわたることから、ここに書かれている内容を全てこの会議のみで議論するのは難しく、部分的に、考慮していくことになるだろう。例えば、提言2については、来年度、ところバス利用者への調査や、アンケートの実施を検討している、また提言3については、交通事業者が地域公共交通会議の委員に参画していることから、少しずつではあるが、この提言に関する取り組みを行っているという認識である。
議長	議会でも、公共交通に関心が高い表れである。
委員	提言7はそのとおりである。交通については地域差がある。
委員	提言6に関連して、最近、金沢のシャトルバスを見たが、良い取り組みが多くあった。観光の視点からもいろいろ考えていけると良いと思う。
議長	提言2に関連して、現状把握のための調査は非常に大切である。最後に(1)について全体を通して何かあるか。

委員	<p>会議に参加していて、公共交通を利用する側も、もう少し感謝の気持ちがあっても良いのかなと感じている。</p>
委員	<p>提言についてであるが、提言がなされてから1年ほど経過しているが、取り組みが遅いような気がする。</p>
事務局	<p>地域公共交通の検討は継続性があり、長いスパンで取り組んでいくものであることから、この提言を取り入れるべき機会があったときに、きちんと検討したいと考えている。地域公共交通会議で市の公共交通の方向性を議論している今がまさにその機会の1つである。</p>
委員	<p>過去に、ところバスの運行ルート上における、交通に関する支障、例えば、信号機の改良、交通規制、道路渋滞といったことへの相談をいただいたことがない。今後、運行コースの見直しの際は、そのような点も検討していただきたい。</p>
事務局	<p>今後は、地域公共交通会議の中で、そのような点も踏まえながら検討していきたい。</p>
委員	<p>資料4における提言7に関連して、「中間報告書」はここにあるマスタープランの位置づけなのか。</p>
事務局	<p>そうではない。今後、何らかの交通に関する計画の策定は検討していきたい。</p>
委員	<p>これからであるならば、活性化再生法に基づく地域公共交通網形成計画の策定も踏まえ検討して欲しい。</p>
	<p>(2) その他について</p>
議長	<p>その他について事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>今後の予定だが、この会議の委員の任期は2年であるため、折り返し時期の来年6月を目途に、一度、地域公共交通会議の意見を取りまとめたいと考えている。</p>

	<p>次回の会議は来年の1月26日（火）午後2時からを予定しているが、その際には、本日までの意見等を集約し、この会議としてのまとめを素案として示す予定である。</p> <p>正式には追って通知する。</p>
議長	<p>意見等がなければ、以上で議事を終了する。</p>
経営企画部次長	<p>以上で、平成27年度第3回所沢市地域公共交通会議を終了する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>